

# 令和5年度生ごみ堆肥化機材助成者に対するアンケート結果総括 (令和4年度の助成利用者を対象に実施)

## 1 世帯状況

居住環境について、電動処理機では「一戸建て」が約6割、「集合住宅」が約4割だったのに対し、堆肥化器材では「一戸建て」が約9割、「集合住宅」が約1割となっている。世帯人数はいずれも「2人世帯」が最も多い。

使用者の性別としては、電動処理機では女性81%、男性18%であるが、堆肥化器材では男性の割合が高まり、女性58%、男性40%となっている。

使用者の年齢層は、電動処理機が「30歳代」から「60歳代」と幅広い年齢層で使用されており、特に「40歳代(25%)」と「50歳代(25%)」が多かった。一方、堆肥化器材は「50歳代」から「70歳代以上」で多く、特に「70歳代以上(41%)」が多い結果となった。

## 2 助成制度等の情報の取得及び動機

### ○助成制度等の情報の取得について

いずれも「札幌市ホームページ」と「広報さっぽろ」という公的な情報で7割以上を占めるが、電動処理機で広報さっぽろが40%であるのに対し、堆肥化器材は広報さっぽろが51%となっており、使用者の年代も影響しているものと思われる。

### ○使用を始めた理由(複数回答可)について

電動処理機は「生ごみを減らしたい(66%)」「臭いを減らしたい(63%)」が多く、堆肥化器材は「堆肥として再利用(98%)」「生ごみを減らしたい(73%)」が多く選択された。

## 3 堆肥化の状況

### ○現在の堆肥化(減量)の取組状況について

電動処理機では現在も堆肥化(減量)に取り組んでいる人の割合が72%であったのに対し、堆肥化器材は93%と、堆肥化器材の方が取組を継続している人の割合が高かった。

### ○生ごみの減量効果について

前問の「取り組んでいる方」に対して、生ごみがどの程度減ったと感じているかについて質問。電動処理機は「半分程度減った」が31%、「7割以上減った」「出さなくなった」が33%。堆肥化器材は「半分程度減った」が27%、「7割以上減った」「出さなくなった」が48%と、堆肥化器材の方が生ごみの減った割合が高い結果となったが、いずれも7割程度が「半分以上減った」と感じている。

## ○堆肥の活用について

堆肥の主な活用先としては、電動処理機の48%、堆肥化器材の93%が「自宅や市民農園」と回答した。なお、電動処理機では「ごみとして廃棄(33%)」も一定の割合を占めているが、これは居住環境において集合住宅が4割程度となっていることから、家庭で活用することが難しい実態を反映しているものと思われる。

## ○堆肥化の情報の取得(複数回答可)について

電動処理機、堆肥化器材ともに「本や雑誌」「札幌市ホームページ」「札幌市以外のホームページ」が多く、堆肥化器材では「生ごみ堆肥化セミナー(17%)」も一定の割合を占めていた。

## ○堆肥化の今後の継続意思について

電動処理機は「今後も継続」が74%、「冬期間は中断するが来春から再開」が9%となり、今後も継続する割合は計83%となった。

堆肥化器材は「今後も継続」が66%、「冬期は中断するが来春から再開」が33%と、設置場所の影響もあるせいか内訳に差が見られるものの、今後も継続する割合は計99%となった。

## ○堆肥化に取り組んでいて困っている点や現在取り組んでいない、もしくは継続は難しい理由(複数回答可)について

電動処理機は「電気代がかかる(40%)」が多く、昨今の電気料金の値上げが影響しているものと思われる。ほか「堆肥の使い道がない(21%)」「手間がかかる(18%)」も一定の割合を占めていた。

堆肥化器材では「冬期間の処理に困る(40%)」「虫が気になる(36%)」「臭いが気になる(28%)」が多く選択された。

## ○生ごみ堆肥化セミナーについて

生ごみ堆肥化セミナーについて、電動処理機においては29%の認知度があるものの、「参加したことがある」は0%であった。

一方、堆肥化器材では72%の認知度があり、「参加したことがある」も21%と多くなっていた。

## ○生ごみ堆肥化相談窓口について

電動処理機は認知度が16%で「利用したことがある」については1%であった。

一方、堆肥化器材では48%の認知度があり、「利用したことがある」は7%であった。